

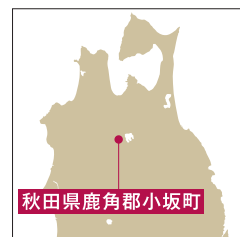


シリーズ  
探訪・探究

# 訪れたいまち

第 12 回

秋田県鹿角郡小坂町



秋田県鹿角郡小坂町

康楽館をはじめとした近代化産業遺産を再現することにより明治百年通りを整備し、「平成18年度手づくり郷土賞」を受賞した小坂町を訪れてみました。

## 小坂鉦山と共に栄えた町

盛岡駅から青森行き高速バスで約一時間半の山間に、まるで西洋庭園のような空間が、タイムスリップしたかのよう  
に現れた。瀟洒な洋館が立ち並ぶ広場に噴水やブロンズ像が点在し、アジア並木が続いている。

そこが、秋田県北東部に位置する小坂町だった。

町の観光産業課がある小坂鉦山事務所は、白亜のルネッサンス風建築物。華麗な外観は町役場のイメージとはほど遠く、玄関ホールに入ると螺旋階段が三階まで突き抜け、美しい曲線を描く。課長補佐兼学芸員の亀沢修氏に町の歴史を伺った。

明治17年、小坂鉦山は、官営から「藤田組(現DOWAホールディングス株式会社)」に払い下げられたという。藤田組工作課設計責任者(当時)だった北湯口勇太郎が設計した鉦山事務所を中心に海外先進技術を取り入れて、飛躍的な発展を遂げた。

田舎の町でありながら町民は交流好きで、新しい物をどんどん取り入れようとする資質。明治40年頃、鉦産額全国第一位(当時の秋田県歳入決算額の8倍以上)が示す好景気の中、ヨーロッパの町に匹敵する「理想社会を実現した町」を作ろうという気風があふれていた。

順風満帆の時代、町の人口は二万数

千人に膨らみ、いち早く水道や電気が導入され、さらに病院、小学校、鉄道、郵便局から警察に至るまで全て一企業が招請整備して近代的な都市が誕生した。

西洋建築を日本人が設計し、明治時代の大工達が建て、近隣の市町村とは一線を画したハイカラな町並みを作り上げたことに驚嘆するばかりだ。

## 町のシンボル康楽館の再生

鉦山で働く従業員と家族のために



小坂鉦山事務所は、明治38年に創建され、現在は国重要文化財。

小坂町観光産業課課長補佐の亀沢 修さん。小坂町は、旧小坂鉄道の小坂駅と既存のディーゼル車両で町の賑わいづくりを計画している。







小坂町元助役の工藤 保さん。小坂町観光案内人協議会会長などを歴任する。

厚生施設として設立されたのが明治43年創建の康楽館である。ここでは、歌舞伎や新劇、映画などが上演され、子ども達の学芸会も行われた。家族は観劇会でどの席が当たるかを話題にし、男達は助け合い人情を大切にする芝居を励みに重労働に耐えた。康楽館は、人々の暮らしに根付いた文化の発信地だったが、カラーテレビの普及や建物の老朽化と共に客数が減り、昭和45年に一般興業が中止されると、取り壊しの空気も流れ始めた。長年親しみ思い入れが深いものの、果たして復興させるほど価値があるのか判断しかねていた頃、有識者のほか著名な芸能人や演劇団体から「保存し、活用する価値がある」という声が高まり、町は建物の診断と調査に乗り出した。

設計者は、藤田組工作課営繕係長（当時）を務めた山本辰之助。外観はアメリカ木造ゴシック建築の影響を受けた洋風で、内部は花道や畳の棧敷席がある純和風の木造芝居小屋である。舞台の下には、黒子が回り舞台を回すための「奈落」があり、花道の地下に出演者がせり上がったり隠れたりするための「切穴」というしくみが備わっている。楽屋には、壁から天井まで出演者のサインが無数に書き残されていた。昭和60年に町は復興を決断し、芝居小屋として活用しつつ文化財として保存するため忠実な修理・復原を行った。

その後、小坂鉦山事務所を明治百年通りに移築・復原し、観光案内所や歴史資料展示室、レストランなどとして利用することとした。同時に小坂鉦山病院記念棟、幼児教育施設「天使館」（昭和7年〜平成4年）を改修するなど、平成8年から7年の歳月をかけてアカシア並木の通りは、明治の香りを醸し出すレトロモダンな町の顔として生まれ変わった。

### 町の人々と共に

小坂町観光案内人協議会会長を務める工藤保氏は、当時町職員だった頃を振り返る。「試行錯誤しながら文化財指定手続きを進め、二億二千万円かけて役場主導で再生し、徐々に観光地として道路や駐車場を整備しました。最初は観光客を誘致する方法もわからず、果たして本当にお客様が来てくれるのか、考えると不安で胃が痛くなりました」

「公演やイベント開催のため、当時の



康楽館の客席は、純和風（畳）の棧敷席に洋風の板張り天井。客席には傾斜がついて見やすいように設計されている。



大正時代の康楽館観劇風景。



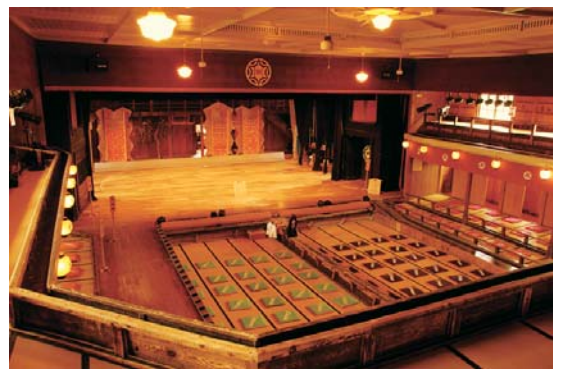
康楽館が好きで前職（プリンスホテル）から転職し、現在は小坂まちづくり株式会社康楽館館長の高橋竹見さん。小坂町に恩返しをしたいと語る。



趣のある楽屋内部。壁面には、出演者のサインが数知れず残っている。



奈落。黒子が9.7mのろくろを回して舞台を回転させる。日本の「回り舞台」が発祥となり、世界中に広がった。



明治43年創建。国重要文化財。1910年8月16日の柿落し（最初の興業）から101年目の今も常設及び特別公演が行われる。





フラワーボランティアの会。クリスマスローズの植栽と手入れ、フラワーハンギングバスケットの設置を行う。



中央公園には現在約90カ国の国旗と研修員の名が残る。

助役自ら、アカシアの蜂蜜を手土産に上京し、松竹歌舞伎から小さなエージェントまで営業したのです」

演じる役者よりも観客の方が少なかつた頃もあった。

「職員は、通常業務の傍ら四チームに分かれて近頃の農協やマスコミを訪ね、康楽館のPRを続けました」

工夫と努力が功を奏し始め、静観していた住民の間にも美化活動や景観整備を行う協力者が増えていったという。

「フラワーボランティアの登録者は現在約1200人。16名のメンバーで休祭日などに、観光案内をするボランティアも行っています」

平成11年から毎年十数人(独)国際協力機構の海外研修員が製錬技術を学ぶために訪れる。

「町民が研修員のホストフレンドを引

平成23年3月の東日本大震災以降、康楽館は県外観光客など二万人以上のキャンセルを受けた。一方で康楽館を守ろうという熱い気持ち盛り上がり、地元客は、昨年まで年間200名程度だったが、九月末までの半年で1200名に達した。

昔、危険と隣り合わせで働く採鉱夫は「友子」と呼ばれる組織で技術を

受けます。約90カ国の鉱山関係者が、中央公園に母国の国旗を描いて帰国しています」

住民参加のまちづくりで交流人口を増やしてきたのである。

**百年の時を超えて**

小坂町はもうひとつ別の24時間眠らない工場の町という顔も持っている。

平成6年、鉱石の減少と円高の影響から町の鉱山は全て閉山したが、それまでに培った高度な製錬技術を活用して輸入鉱を処理する製錬所に方向転換する。

現在は、「土に還る物は土に還し、土に還らない物は再資源化する」という理念に基づいて廃棄物から金・銀・白金などを回収する最先端の資源リサイクル産業を展開。また、休耕田を利用した菜の花栽培では「菜々の油」を精製販売し、廃油は農耕作機械の燃料として利用している。

## 小坂町 Guide map



旧聖園(みその)マリア園の「天使館」は、昭和7年創建の登録有形文化財。現在は町の多目的ホールとして使用。



環境省「かおり風景100選」にも選ばれている「明治百年通り」。

伝え、親兄弟以上の絆を深めた。けがや病気で働けなくなった時は「友子」の仲間がその子息を育てたそうだ。そんな繋がりが今でも町民の心の奥に息づいているのかもしれない。

小坂町は、歴史の波に翻弄されながらも先人達の想いと生きる糧を引き継ぎ、それを活かしながら波乱の二世紀を見事に乗り越えてきた。

百年の時を超えて今なお現役で活躍する明治百年通りは、これからも町の歴史を語り継ぎながらたくましく、そしてしなやかに新しい時を刻んでいくに違いない。



「菜々の油」



24時間眠らない工場の町。かつて煙害で黒い丘に変貌した土地に植栽されたニセアカシアが今では300万本にも増えた。

### ふるさと ●「手づくり郷土賞」とは

国土交通省では地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本、及び、それと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘し、大臣表彰を行っています。好事例として広く紹介することにより、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取り組みが一層推進されることを目指しています。

## MLIT レポート

全国各地で働く国土交通省職員が地元を紹介します。

Reporter

東北地方整備局  
秋田港湾事務所  
港湾保安調査官  
田中 朋和



**秋** 田港は、背後に火力発電所、垂鉛精錬所などが立地し、日本海を介してロシア、中国、韓国および北朝鮮と隣接しています。一方、秋田臨海鉄道の秋田北港駅が大浜コンテナヤードに接続して敷設された、鉄道と港が直結する数少ない港でもあります。

秋田港湾事務所では、これら既存施設の有効活用も視野に、海上輸送(SEA)と鉄道輸送(RAIL)を組み合わせた「秋田港シーアンドレール構想」の実現を進める秋田県や、秋田商工会議所など地元官民の取り組みを積極的に応援しています。

これは、秋田港をゲートウェイとして船で「国際海上コンテナ貨物」を極東ロシアのウラジオストクへ、その後シベリア鉄道

を活用してモスクワからその先のヨーロッパ各都市まで船と鉄道で結ぶ構想です。

通常、ヨーロッパまで船で輸送すると約2カ月弱かかりますが、シベリア鉄道で輸送した場合、輸送日数を1カ月程度まで大幅短縮することができます。さらに、トラック輸送に比べてCO<sub>2</sub>排出量が少なく、環境に優しい輸送方法としても期待されています。

**ま** た、シンボルタワーのセリオンを中心に「みなとオアシスあきた」が形成され、昨年、「道の駅 あきた港」にも認定されました。展望台、レストラン、イベントなどのほか、セリオンリスタは、厳しい冬でも快適な屋内緑地として一年中緑と憩いの場を楽しめます。ぜひご家族お揃いでお出かけください。



夜景百選に選ばれているセリオンタワー。



ガラス張りのセリオンリスタは一年中緑に包まれている。

### 「秋田港シーアンドレール構想」

